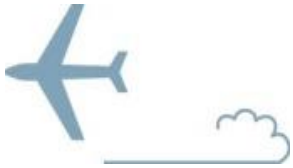
ALPA Japan NEWS
日乗連ニュース
www.alpajapan.org　Date　2015.7.27　No.　38 – 44

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
企画会議
〒144-0043
東京都大田区羽田 5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

8.10 明日への誓い

誰のための安全なのか　何のための解雇なのか

御巣鷹山事故 1985 年 8 月 12 日
あの夏から 30 年目のシンポジウム



連続事故と 123 便事故

1985 年 8 月 12 日。羽田空港を離陸し伊丹空港へ向かったボーイング 747 型ジャンボ機が群馬県の御巣鷹の尾根に墜落しました。520 人もの犠牲者を出し、単独機では史上最悪の事故となりました。

この事故に至るまでの間、日本航空では、1972 年のニューデリー事故、ボンベイ事故、モスクワ事故、アンカレッジ事故、クアラルンプール事故、羽田沖事故など多くの事故を起こしてきました。

「4 つの誓い」

日本航空は、この 123 便事故を契機に、国民に対して 4 つの誓い、「1. 絶対安全の確立、2. 現場第一主義、3. 公正明朗な人事、4. 労使関係の安定・融和」を掲げました。その後、日本航空はこの誓いを忘れ、放漫経営を続け 2010 年 1 月に経営破たんとなり、客室乗務員とパイロットをあわせて 165 人を解雇しました。

失われた絶対安全

労働組合つぶしのために必要のない解雇を行い、そして「利益なくして安全なし」という経営方針になってしまいました。

破綻から 5 年後の今、職場の疲弊は極限に達し、250 人ものパイロットの流出や毎年 600 人に及ぶ客室乗務員の自主退職が現れています。

明日への誓い

御巣鷹山事故から 30 年、4 つの誓いはどうなったのか、シンンポジウム「8.10 明日への誓い」で討論・検証します。

お忙し時期でありますが、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日時：8月10日（月）18時開場　場所：日本教育会館　神保町駅徒歩5分
主催：JAL不当解雇撤回国民共闘